

「保健医療科学」  
第52巻 第2号 予告

健康危機管理

厚生労働省における健康危機管理体制	千村浩
健康危機管理と情報評価	緒方裕光
Field Epidemiologistの養成	ジョン・コバヤシ
医療面における危機管理マニュアルの意義・有用性－災害対策を中心に－	原口義座
化学災害の健康危機管理	郡山一明
宮城県におけるレジオネラ症集団感染と健康危機管理	福田祐典
千葉県におけるO157広域集団発生事例－その探知と対応－	土戸啓史, 瀬上清貴
臨界事故と健康危機	佐藤正

編 集 後 記

私が所属する口腔保健部は、感染研（国立感染症研究所）から科学院に編入して1年余の新参者です。私自身、科学院の一員に加わるやいなや編集委員を仰せつかり、当初は右往左往するだけでした。さらには、編集委員会の席で口腔保健の特集について口走ったとたん、あれよあれよという間に、今号の特集に至ってしまった感があります。

口腔疾患は御存知のように重篤度は低いものの、多くの人何らかのかたちで実体験している疾患でもあります。しかし、その問題解決の方向は、個人的な問題として歯科医院での治療というかたちに求められ、公衆衛生の視点が軽んじられてきた嫌いがあります。人口・疾患構造の変化により公衆衛生のあり方が変わろうとしている昨今ですが、わが国の口腔保健についていえば、「これからは公衆衛生の時代」であり、社会の側もようやくこのことに気がついてきたように思えます。今号の特集では、この点をアピールしたつもりですが、いかがでしたでしょうか。

こんなに早い機会に特集を組む機会が訪れるとは思っていませんでしたが、新参者の我々にとっては、よい機会を与えていただけたと思っております。

(安藤雄一)